

新たな抜本的 がん研究戦略に向けて

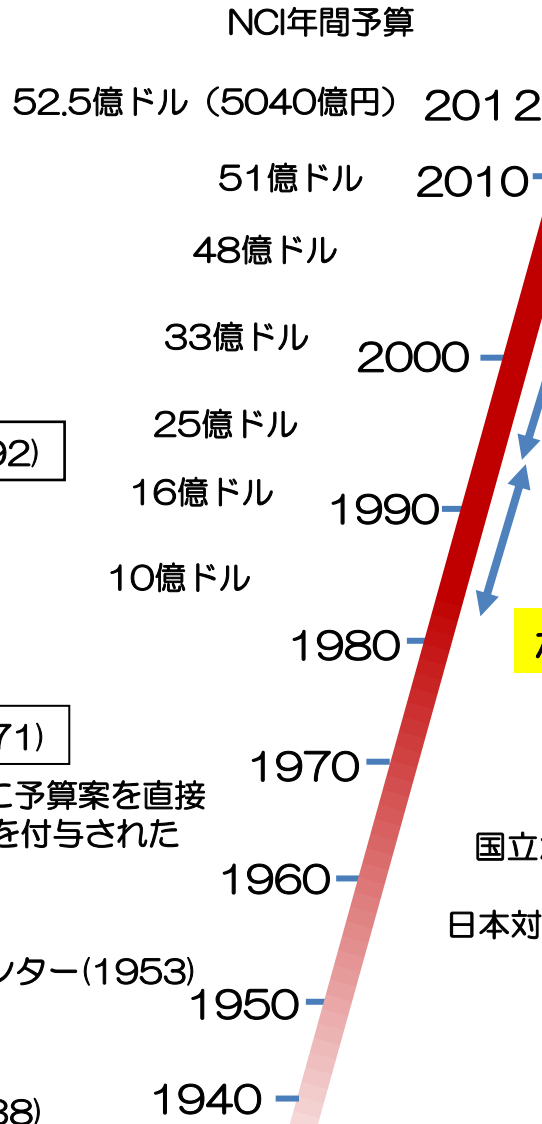
国立がん研究センター
理事長 堀田知光

わが国のがん研究

- 昭和59年に中曽根内閣の提唱により「対がん10カ年総合戦略」が開始され、歴代の政府の強力な推進により多くの成果を上げてきた。
- 過去30年の対がん戦略において、がんの仕組みが分子レベルで明らかになり、画期的な予防法や治療法などが登場し、治療成績は格段に進歩した。
- しかし、依然として原因不明のがん、難治がんも存在し、予防・早期発見の重要性が増している。がんに対する挑戦は人類の大きなテーマである。
- 平成25年度で第3次対がん10カ年総合戦略は最終年を迎える。新たな抜本的がん研究戦略が求められる。

わが国のがん対策の歩み

米国



がん多死社会の到来に向けて

新たな“がん研究 総合戦略”が必要

(がん研究、がん登録法整備、医療供給体制の整備、etc)

医療イノベーション5か年戦略 (2012)

第3次対がん10か年総合戦略 (2004-2013)

がん克服新10か年戦略 (1994-2003)

対がん10か年総合戦略 (1984-1993)

がん対策基本法(2006)

第3次対がん 厚労省 360億円/8年間

文部省 443億円
 科技厅 940億円
 厚生省 260億円

文部省 234億円
 科技厅 610億円
 厚生省 180億円

がんが死因の第1位(1981)

老人保健法(1982)

国家がん法(1971)

NCIが大統領に予算案を直接提出する権限を付与された

がん特別研究制度(1966)
 がん研究助成金制度(1963)

国民皆保険 (1961)

国立がんセンター設立(1962)

日本対がん協会設立 (1958)

NIH臨床センター(1953)

NCI設立(1938)

国家がん研究所法(1937)

癌研究所(1934)

第3次対がん10か年戦略 (2004-2013)

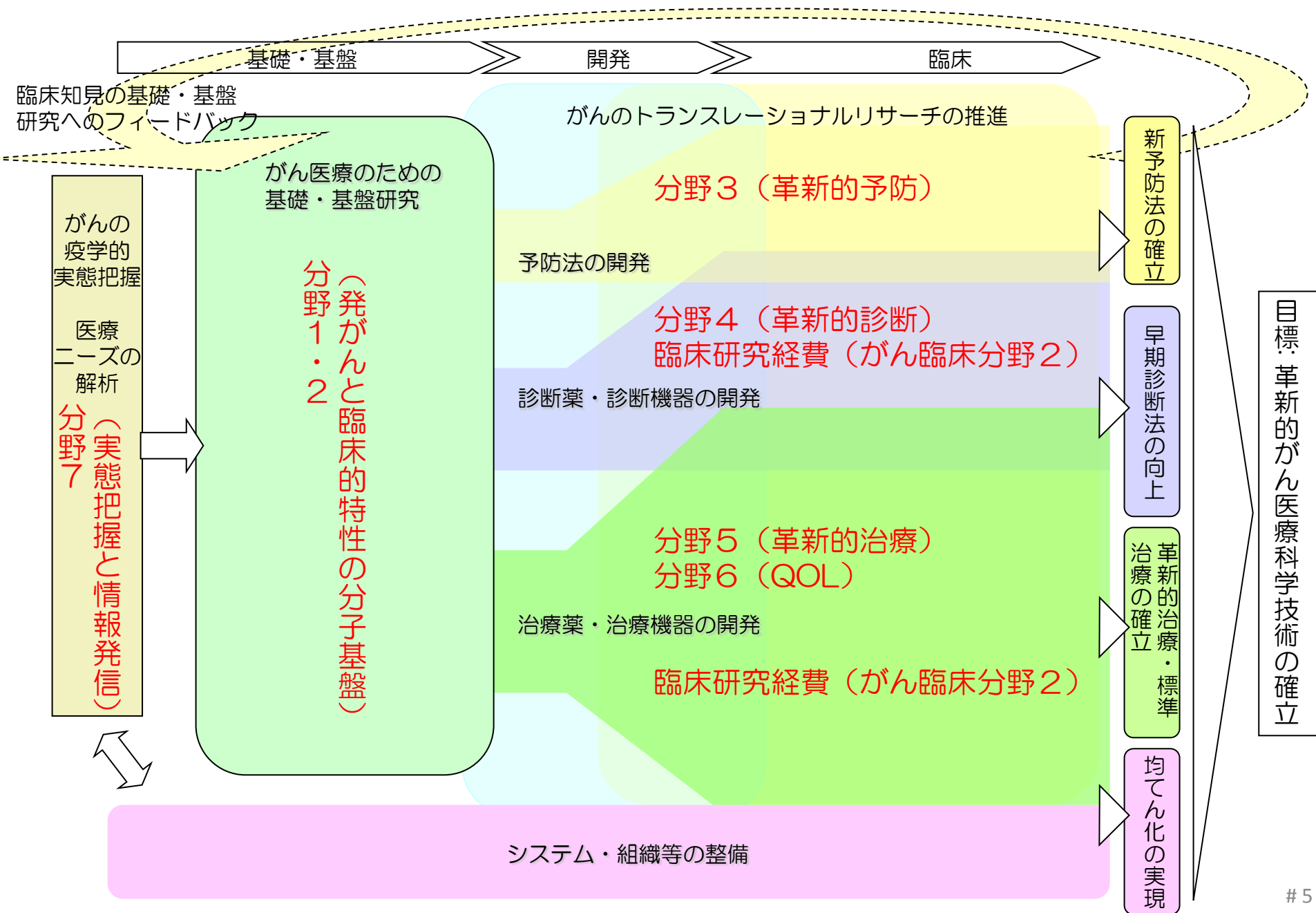
[戦略目標]

わが国の死亡原因の第一位であるがんについて、研究、予防及び医療を総合的に推進することにより、**がんの罹患率と死亡率の激減**を目指す。

(具体的な戦略目標)

- 進展が目覚ましい生命科学の分野との連携を一層強力に進め、がんのより深い**本態解明**に迫る。
- **基礎研究の成果**を幅広く予防、治療に**応用**する。
- 革新的ながんの予防、診断、治療法を**開発**する。
- **がん予防**の推進により、国民の生涯がん罹患率を低減させる。
- 全国どこでも、質の高いがん医療を受けることができるよう「**均てん化**」を図る。

第3次対がん総合戦略の分野構成 (H18年9月総合科学技術会議提出資料)

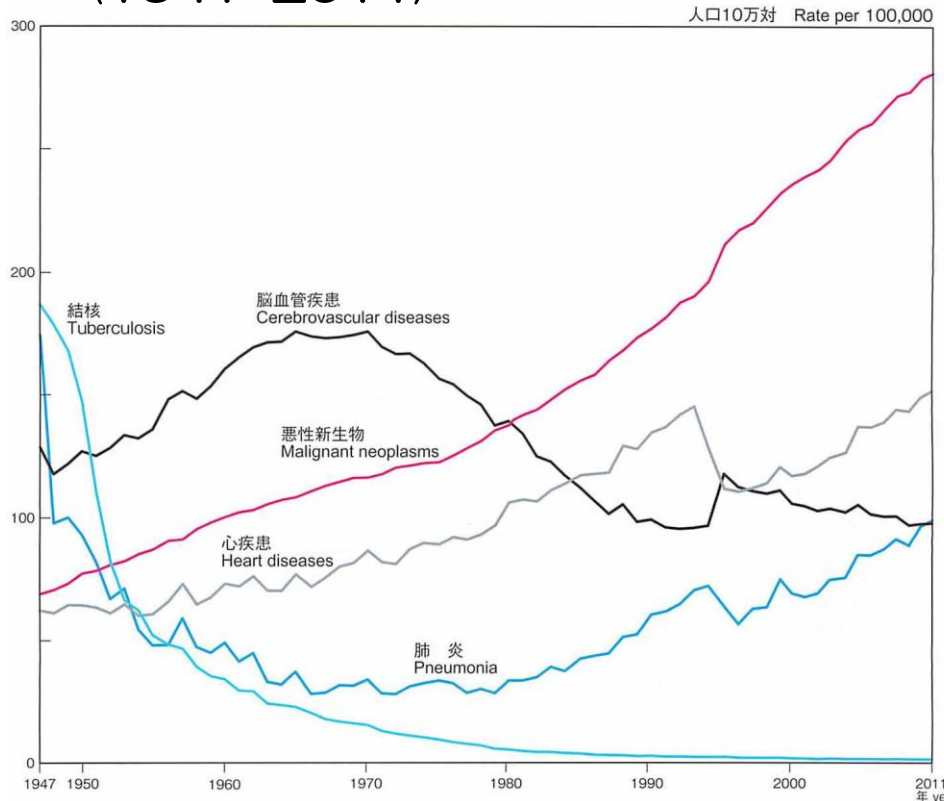


がんは国民病

- 人口の**急速な高齢化**に伴い、日本人の二人に一人ががんになり、今後さらに患者が増加
- **がん多死社会**が到来（2030年にピーク）
- **これからの10年が対策の正念場**

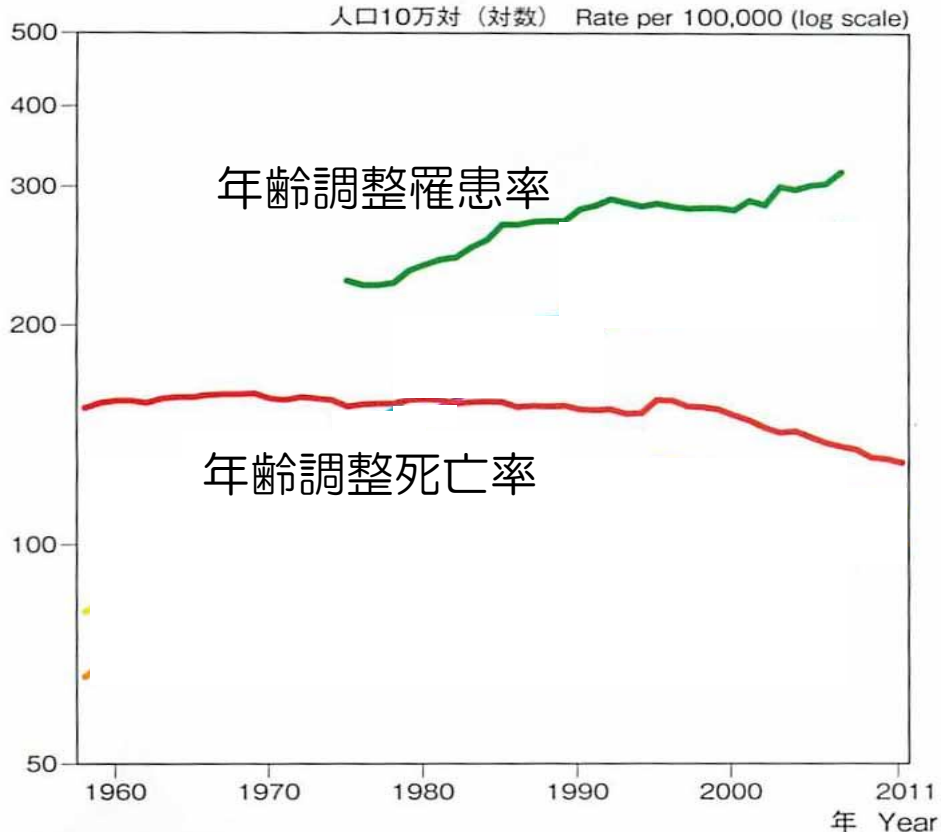
がんの粗死亡率と年齢調整死亡率 および罹患率の推移

主要部位別粗死亡率年次推移
(1947-2011)



がんは1981年から死因の第1位で総死亡の3割を占める。

全がんの年齢調整罹患率と死亡率
全年齢 男女計 All Ages both sexes

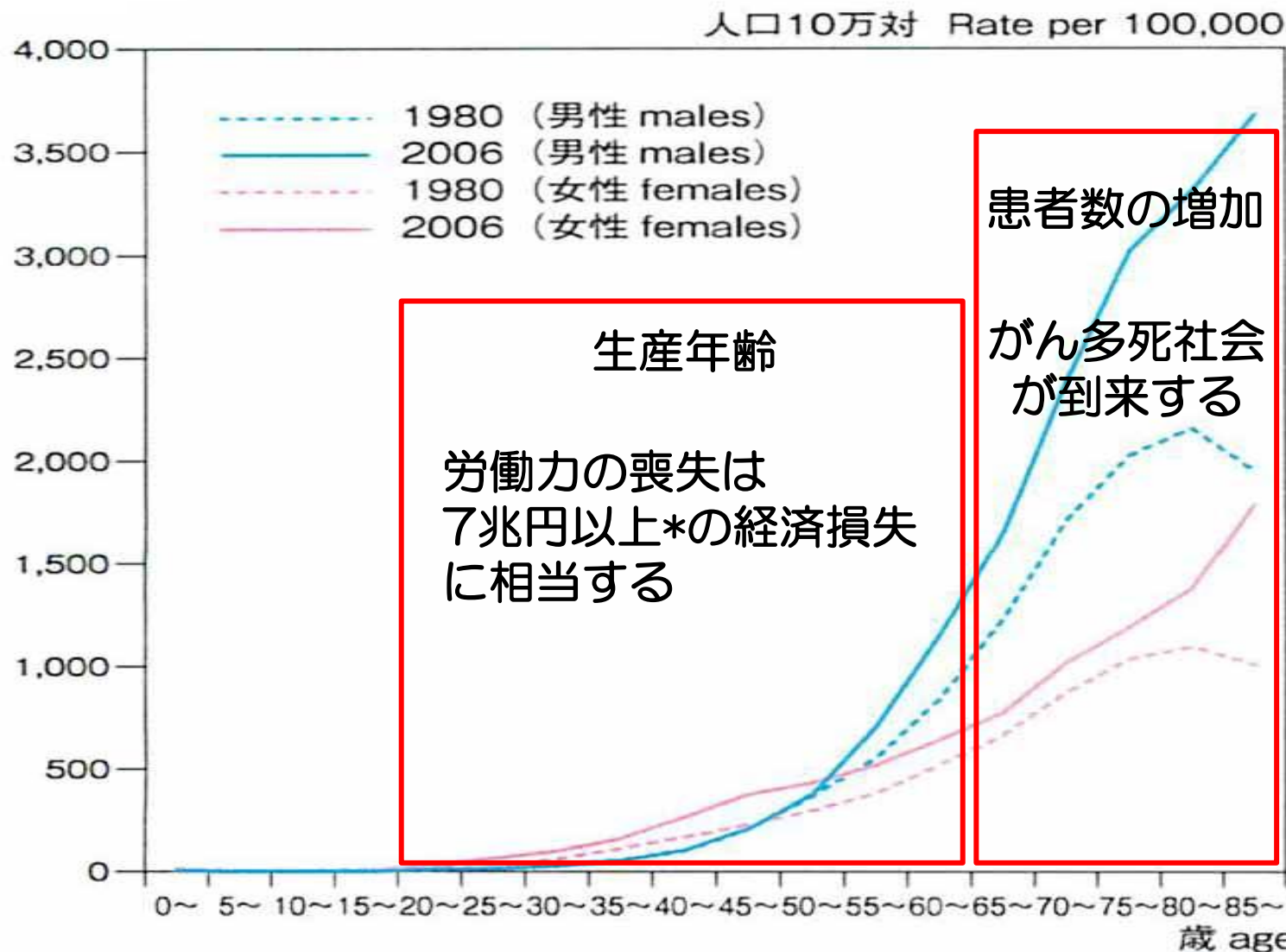


1996年以降、年齢調整死亡率は減少傾向にあるが、罹患率は上昇を続けている。2030年にはがん患者は大きく増加する。

年齢階級別がん罹患率推移(1980年、2007年)

全がん All cancers

がんの統計' 12



*「がん対策の費用の分析」

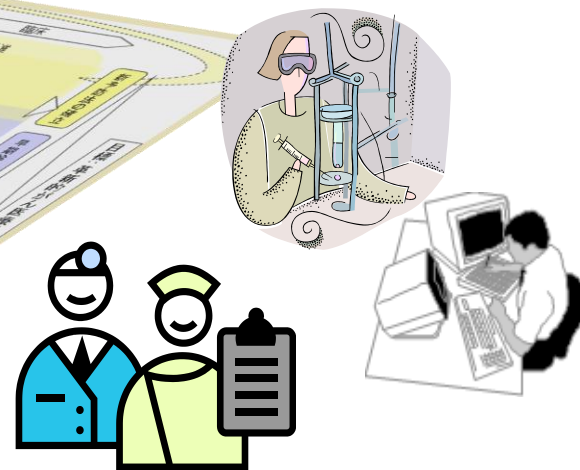
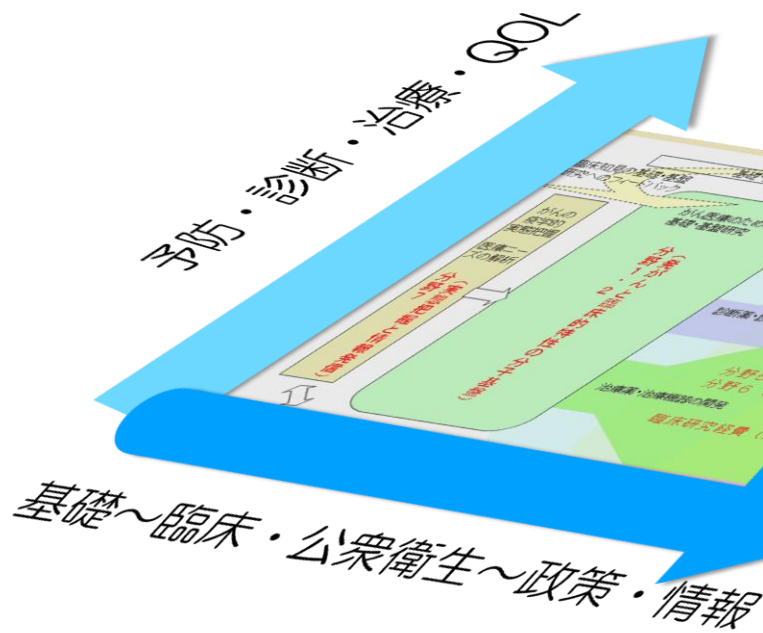
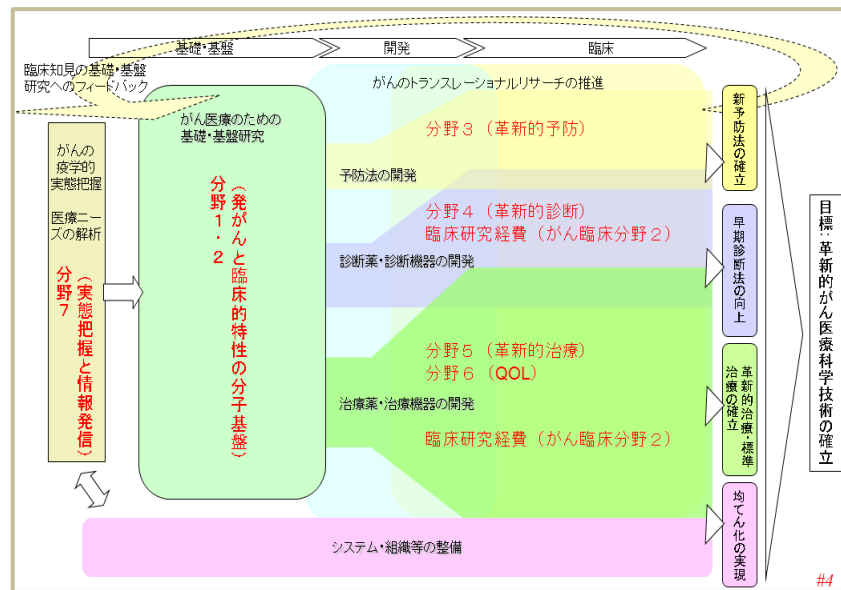
(分担研究者：福田敬平成20・21年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業)#8

わが国のがんの現状と将来予測

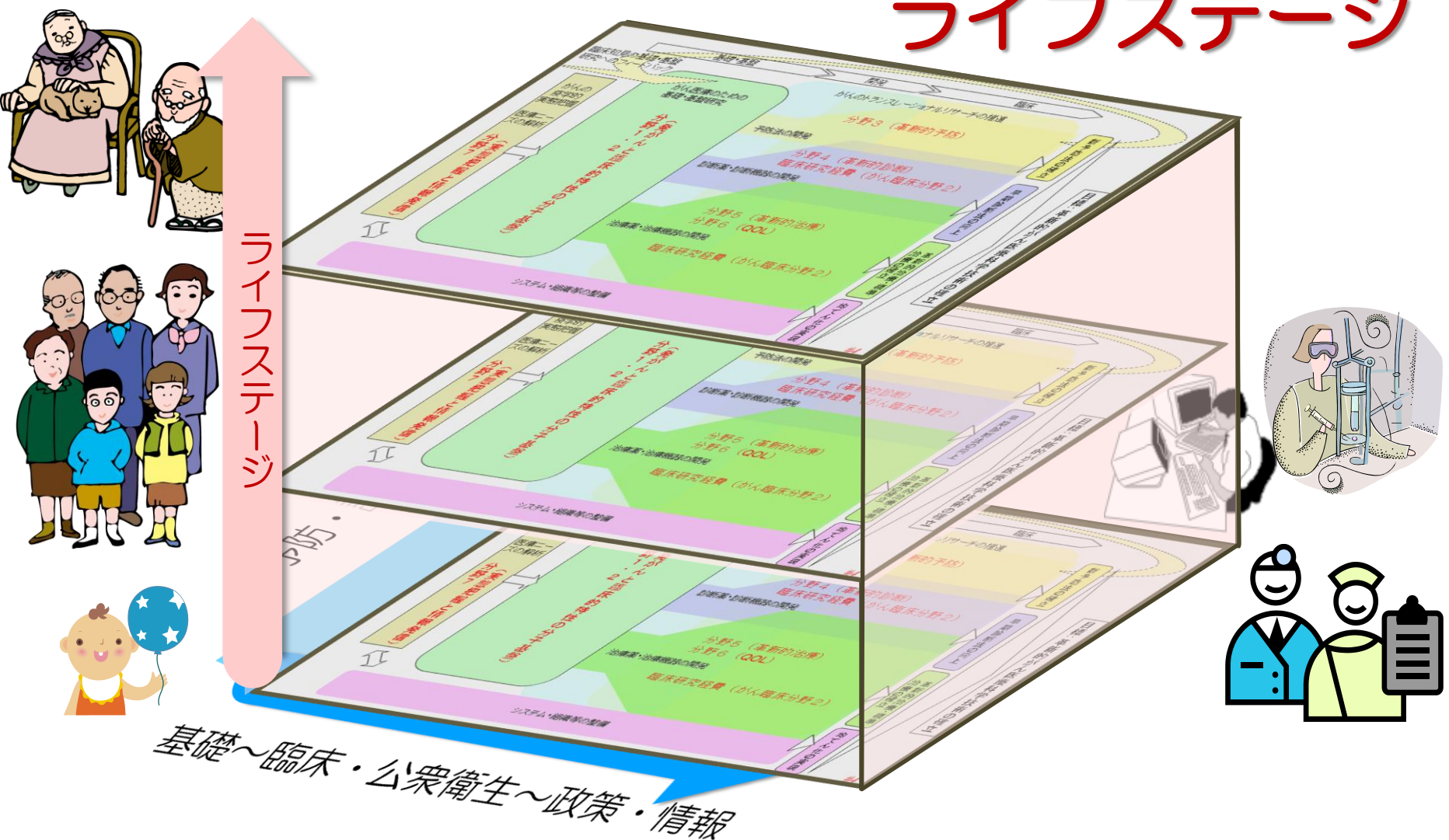
- 国民の二人にひとりががんに罹り、三人にひとりががんで死亡する。
- 働き盛り世代の死因の40%のがんである。
- 人口の高齢化とともにがんの罹患率は上昇し、年齢調整死亡率は低下するが、総死亡者数は増加する。
- 団塊の世代が後期高齢者層を形成する2030年代にはがん患者数は大きく増加する。

新たな対がん戦略で強調される第三の視点： ライフステージ

今までのがん研究



新たな対がん戦略で強調される第三の視点： ライフステージ



戦略的・総合的な 疾患研究を推進するためには
「**第三の視点：ライフステージ**」が重要

がんをライフステージから見る必要性

- がんは我が国の健康長寿に関わる最大の問題。未だがんに罹患していない**全ての国民**にとっての課題であるとともに、**小児、働き盛り世代、高齢者等**のそれぞれのライフステージに応じて、数々の個別課題が存在する。
- ライフステージごとの課題は、がんの生物学的・臨床的特性の解明から、医療や福祉・患者支援・社会制度等の改革にも及ぶ。
- それぞれのライフステージにふさわしい予防・治療概念や医療技術の確立が求められる。

ライフステージと、 がんの特性に応じた医療の創出

1. 本態解明に基づく**予防と早期発見**により、
がん患者数の減少。
2. 未だ治せないがん等に対する**革新的な診断・
治療法**の開発。
3. **小児がん・希少がん**の特性に注目した医療の確立。
4. **働き盛り世代**に対する就労支援、地域での生活
支援等、がん患者・家族を包括的に支援する
体制の確立。
5. **高齢者**に適したがん医療の確立。
6. **高齢化社会**に対応した**日本型がん医療モデル**の
国際展開。

(参考) 新たながん研究戦略の策定時、 踏まえておくべき指針・報告一覧

- がん対策推進基本計画 (平成24年6月 閣議決定)
- 医療イノベーション5か年戦略
(医療イノベーション会議 平成24年6月6日)
- 今後のがん研究のあり方について
(がん研究専門委員会報告書)
(がん対策推進協議会がん研究専門委員会 平成23年11月2日)
- がん研究の現状と今後のあり方について
(文部科学省科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
ライフサイエンス委員会 がん研究戦略作業部会 平成22年6月25日)
- がん研究の今後のあり方に関する研究報告書
(平成24年度厚生労働科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業)